

平成25年度全国学力・学習状況調査結果の概要

平成25年10月
伊那市教育委員会

1 調査の目的（文部科学省）

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 平成25年度調査実施日 平成25年4月24日（水）

3 調査対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年

4 調査内容

- ◇教科に関する調査（国語、算数・数学）
 - ・主として「知識」に関する問題（A）
 - ・主として「活用」に関する問題（B）
- ◇生活習慣や学校環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

5 教科に関する調査結果の概要と改善のポイント

◇国語 小中平均して基礎的な力はあるが、小の読むこと、中の書くことに課題がある。どのような本や文章を読むのか、どのような観点で読むのかなど、読み方を工夫できるように指導する。また、自分の考えを具体的に書く力をつけるために、本や文章の興味や関心を持った部分を明確に示したうえで、なぜそこに着目したのか、その内容について自分はどのように考えるかなど、根拠を明らかにして自分の考えを具体的に書く指導の工夫を小中一貫して行う。

漢字の読み書きは問題によって差異があった。漢字を習得し語彙を拡充したり、言葉への関心を高め言語感覚を豊かにするために、日頃から辞書等を使って調べたりする機会を意図的に設け、習慣づけるよう取り組む。

◇算数・数学 小中を通して、基礎基本の理解が良く、また問題をとらえたり理由等を記述したりする力がある。しかし分数の計算、Bの関数に課題が見られる。基本となる計算の理解と習熟を図ると共に、計算の結果を見積もったり、計算の確かめをしたりするなど、実態に応じて継続して指導する必要がある。また、事象を数学的に表現したり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈したりすることを通して、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明する活動の充実を図る。

さらに、小中一貫した数理をもとに、系統的・発展的に展開できるようにし、モデルを提示してそれをもとに児童生徒が自信を持って取り組めるような仕掛けを教師が意図的に行うなどの授業を工夫していく。

6 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果から特徴的なこと

- ◇ 伊那市の小中学生は、全国に比して早寝早起き朝ごはんの習慣が身につけている。
- ◇ 地域行事へ参加を「している、どちらかというとしている」が、小中共に多い。
- ◇ 家庭学習について、宿題はよくしているが、予習をしている児童生徒の割合は低い。

※ 各校においては、資料分析を行い、授業改善に生かすと共に、児童生徒一人一人の自己理解、個別指導に生かすよう取り組む。